

## 第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

### 報告書資料 一般-34

学校名・団体名	越前市王子保小学校
HPアドレス	<a href="http://school.city.echizen.lg.jp/oshio/">http://school.city.echizen.lg.jp/oshio/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	自尊感情・自己有用感をはぐくむ読み聞かせ活動
<b>〈活動・研究の意義、目的〉</b>  特別支援学級に在籍する4名の児童が、障害の差はあるものの一人一人の持っている力を十二分に発揮して、色々な人に読み聞かせを聞いてもらう。そして、そのことを通じて、周りの人を喜ばせる、周りの人を元気付けるということの楽しさを味わわせたい。そうして、生涯を通じて色々な人と関わりながら生きていくことの楽しさと、積極的に生きていくことの根幹となる自尊感情・自己有用感を高めたい。 また、この活動を通して通常学級の児童はもとより地域全体が、特別支援学級の児童をより理解することにつなげたい。そして、通常学級の中でも読み聞かせ活動に対する関心を高め、言語事項の充実という学習面での本校の課題解決の一助としたい。	

活動報告	
4月16日	「わかば読みきかせ隊」プロジェクト起案
5月下旬	読みきかせ練習開始 『たまごにいちゃん』
6月12日	ちゅうでん教育振興助成応募
6月19日	教育実習生を前に『たまごにいちゃん』披露
6月25日	市特別支援学級合同合宿において、『たまごにいちゃん』読みきかせ
7月2日	王子保幼稚園にて読みきかせ『たまごにいちゃん』
7月10日	王子保小図書ボラに読みきかせ、愛星保育園訪問『たまごにいちゃん』『ありとすいか』
7月中旬	1年~6年まで、野尻医院スタッフ『ありとすいか』『たまごにいちゃん』
8月8日	今立図書館 おはなしおたのしみ会に出演『たまごにいちゃん』『ありとすいか』
9月16日	高齢者グループホーム「ひなたの家」訪問『たまごにいちゃん』『ありとすいか』
10月17日	学習発表会『あしたのぼくは』
11月17日	越前市発育支援センター「なないろ」訪問『たまごにいちゃん』『まどからおくりもの』
12月4日	越前市子育て支援センター「ピノキオ」訪問『たまごにいちゃん』『まどからおくりもの』
12月4日	越前市役所玄関ホールにて読みきかせ『まどからおくりもの』
12月7日	愛星保育園訪問『まどからおくりもの』『明日のぼくは』
12月中旬	王子保幼稚園、図書ボラ、1年~6年に読み聞かせ『まどからおくりもの』
1月26日	越前市南小学校特別支援学級訪問『たまごにいちゃん』『明日のぼくは』手遊び歌
2月18日	府中ロータリークラブ例会にて読みきかせ『グリとグラ』
2月26日	栗田部お年よりの広場 喜楽家訪問『たまごにいちゃん』『グリとグラ』歌

## 内容

4人が役割を分担して絵本を読んでいく群読の形をとり、そこに担任のトロンボーンの効果音や歌伴奏を取り入れた読みきかせを展開した。また、回を重ねる中で、幼稚園や保育園では、『どんぐりやまのたぬきさん』などの手遊びを入れたり、お年寄りの集まりには、『富士山』や『ふるさと』の歌なども一緒に歌ったりした。2月下旬の喜楽家さん訪問では、卒業式を前に練習をしていた『仰げば尊し』も歌ったところ、お年寄りからは「何十年ぶりに歌った。でも、ちゃんと覚えてましたよ。楽しかった。」といった声も聞かれた。

保育園の初回の訪問では、0歳1歳児は無理だろうと言う園の判断で、別教室での活動をしていたが、生演奏で始まる読みきかせに反応して、ハイハイで出てきた園児が、引き込まれるように注視する姿に、保育園職員の皆さんが驚かされていた。2回目の訪問では、最初から0歳児も一緒に読みきかせの中に入って楽しい時間を過ごすことができた。

11月の市発育支援センターでの活動では、通所している就学前の子供とその親御さんを前にして読みきかせと、手遊び歌で楽しい時間を一緒に過ごした。親御さんにとっては、障害があってもしっかりと活動が出来る様子を直に見ることが出来て、障害が疑われるわが子の育ちの見通しを持つ貴重な時間にもなった。

12月には市役所のホールにおいて、昼休みの時間を利用して読みきかせを行った。お昼休みの市職員はもとより来庁者や12月議会開催中の市議会議員の方々も多く集まってくださって、特別支援教育の実態について理解をいただく時間にもなった。

## 成果

### ○ 自尊感情、自己有用感の醸成

通常の学校生活全体の中では、周りの子にサポートしてもらう機会が多い4人の児童が、150人を超える保育園児の前で読みきかせをしたり、6年生や5年生と言った上級生を前に読みきかせをして、「楽しかった」「あんなに上手に読んでみたい」といった感想を多くもらうといった認められる経験を重ねることで、子ども達は自信を持って取り組めるようになった。このことは、普段から交流のある通常学級での授業においても効果が現れ、教職員からも「変わった」「明るくなった」等の意見が多く聞かれた。

### ○ 特別支援学級および在籍児童への理解

読みきかせの後の感想シートには、「役になりきって読んでるのがすごい」「どうしている」「真似したい」「新聞にでていた。すごいんだなあとおもった。」などといった、支援学級の子ども達を改めて見直す意見が多く出てきた。また、市役所や高齢者の施設訪問においても同様の感想を頂くことができた。教員からも同様の感想と共に、聴覚優位の児童が当初台本では読みが出来なかったが、練習を重ねる中で物語全ての文章を覚えてしまっていることに驚き、障害に合わせた指導について、今回の指導の中で学ぶ機会となった。

### ○ 学校図書支援員の活動事例研究

本年度より学校図書支援員が週2日ではあるが配置された。通常、図書の整理やお昼休みの読みきかせ、調べ学習のサポートであるが、わかば学級の活動にも積極的に配置した。選書時のアドバイスや、読みの工夫な

ど、これまでの豊かな経験を直接児童の活動に活かす事が出来た。支援員にとっても初めての経験であり、次年度以降、更に広がる可能性を持っている。また、市内に配置された学校図書支援員のパイオニアとして、支援員の活動事例が広がるきっかけとなった。

下は、支援員が定期的に寄稿している、地元日刊県民福井(27年12月22日)に掲載された記事

2015年(平成27年)12月22日(火曜日)

日刊 県民 福井

# 児童読み聞かせで自信

## 絵本DE心育

わかば学級

「特別支援学級わかばを中心に学校づくりをしていきたい」。学校図書支援員として勤務する小学校の校長先生の考えで、「わかば読み聞かせプロジェクト」が動き始め、私も加わりました。読む本が決まるとみんなで練習。先生方は聞きながら、児童四人の個性を生かした役割分担をしていきます。

練習を重ねると小さかった声が大きく出せるようになり、自分なりの工夫もして行きました。「あの子するように頑張っていきましょう。私たちの衣装を作っているんですよ」と見せてくれました。校長先生がミシンで作業した。



絵本に合わせた手作りの衣装を身につけ、特別支援学級南越ブロックの合同合宿で初演。その後、隣接する幼稚園や学校の朝読の時間での読み聞かせに加え、近くの保育所や高齢者施設へも出掛けていきました。訪問先でさまざまな年代の方に喜んでもらって自信がついてきたのでしょうか。顔付きまで変わってきたように感じました。

今月四日に子育て支援センターピノキオで行ったクリスマス読み聞かせ会。多くの親子連れが訪れ、四人のかわいいサンタさんが繰り広げる読み聞かせに身を乗り出していました。自分より小さい子たちの楽しむ姿に四人のサンタさんは、ぐんとパワーアップ！見事な演技と読みっぷりで会場を湧かせました。

メリークリスマス！  
(JPIC 読書アドバイザー 東眞美子)

ジングルベルの歌を歌ったり手遊びしたりして親子連れを楽しませる児童たち＝越前市の子育て支援センターピノキオで